記者発表資料

平　成　２　２　年　３　月　５　日
米代川水系水質汚濁対策連絡協議会
事務局　国土交通省東北地方整備局
能代河川国道事務所

米代川水系の水環境を守るために
3月9日に「米代川水系水質汚濁対策連絡協議会幹事会」を開催します！

米代川水系水質汚濁対策連絡協議会（幹事長：能代河川国道事務所長　吉永宙司）は、平成２１年度の幹事会を開催します。

会議では平成２１年度事業経過報告や平成２２年度の事業計画を策定するための意見交換、水質事故発生状況、河川ゴミの発生抑制の取組、水質事故発生時の連絡体制の確認を行うこととしています。

当協議会では、今後とも米代川水系の河川や湖沼及び水路の水質汚濁対策の推進や環境保全、水質改善に努めてまいります。

１．実施日時：　平成２２年３月９日（火）１４時００分～（約１時間３０分）

２．場　　所：　能代河川国道事務所　２Ｆ会議室
（能代市鰄渕字一本柳９７－１）

３．内　　容：　議事
１）平成２１年度事業経過報告
２）平成２２年度事業計画（案）

報告等
・水質事故発生状況
・河川ゴミの発生抑制の取組
・水質事故連絡体制の確認　他

※米代川水系水質汚濁対策連絡協議会

米代川水系の水質汚濁対策の推進、河川環境や水質改善に関する連絡調整、水質事故時における対策に関する連絡調整を図ることを目的とし、昭和４９年７月に設立。

協議会は、河川等の管理者や環境担当部局、水質事故対応部局、流域市町村等で構成されており、米代川水系の水質環境を守っています。

※構成機関は、別紙参照

《記者発表先》
・能代市記者クラブ
・大館市記者クラブ
・北秋田市記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省東北地方整備局　能代河川国道事務所
電話（代表）０１８５－７０－１００１
副所長　武田　節朗（内線２０４）
河川管理課長　古関　修　（内線３３１）

米代川水系水質汚濁対策連絡協議会組織名簿

（◎は常任幹事）

機　関　名	委　員	幹　事
東北地方整備局　河川部	（会長）　河　川　部　長	◎河川環境課長
東北経済産業局　資源エネルギー環境部	資源エネルギー環境部長	◎資源エネルギー環境課長
関東東北産業保安監督部 東北支部	（副会長）　東北支部長	◎鉱害防止課長
秋田県　建設交通部	（副会長）　建設交通部長	◎河川砂防課長
		下水道課長
秋田県　生活環境文化部	生活環境文化部長	◎環境あきた創造課長
		生活衛生課長
秋田県　産業経済労働部	産業経済労働部長	◎資源産業課長
秋田県　農林水産部	農林水産部長	農地整備課長
秋田県　鹿角地域振興局　建設部	建　設　部　長	河川砂防課長
秋田県　北秋田地域振興局　建設部	建　設　部　長	河川砂防課長
		下水道課長
秋田県　山本地域振興局　建設部	建　設　部　長	河川砂防課長
秋田県　北秋田地域振興局　大館福祉環境部	大館福祉環境部長	環境指導課長
秋田県　北秋田地域振興局　鷹巣阿仁福祉環境部	鷹巣阿仁福祉環境部長	環境指導課長
秋田県　山本地域振興局　福祉環境部	福祉環境部長	環境指導課長
秋田県　警察本部　生活安全部	生活安全部長	生活環境課長
鹿　角　市	鹿　角　市　長	◎共動推進課長
小　坂　町	小　坂　町　長	町民課長
大　館　市	大　館　市　長	◎環境課長
北　秋　田　市	北 秋 田 市 長	◎生活課長
上　小　阿　仁　村	上小阿仁村長	住民福祉課長
藤　里　町	藤　里　町　長	町民生活課長
能　代　市	能　代　市　長	◎環境衛生課長
岩手県　県土整備部	県土整備部長	河川課総括課長
岩手県　環境生活部	環境生活部長	環境保全課総括課長
岩手県　警察本部　生活安全部	生活安全部長	生活環境課長
八　幡　平　市	八 幡 平 市 長	市民課長
盛岡地区広域行政事務組合消防本部	消　防　長	予防課長
鹿角広域行政組合消防本部	消　防　長	警防予防課長
大館市消防本部	消　防　長	予防課長
北秋田市消防本部	消　防　長	予防課長
能代山本広域市町村圏組合消防本部	消　防　長	警防課長
森吉山ダム工事事務所	事　務　所　長	◎工務課長
能代河川国道事務所	◎（幹事長）　事務所長	◎河川副所長
		◎河川管理課長
		二ツ井出張所長
		鷹巣出張所長

※北秋田地域振興局大館福祉環境部は鹿角地域振興局福祉環境部を兼務しております。

※北秋田地域振興局建設部下水道課は鹿角地域振興局建設部下水道課を兼務しております。（H21.4.1）

平成２１年の水質事故発生（通報）状況について

○状況

・平成２１年の水質事故通報件数は３７件であり、ほぼ平年並み。（H16-21平均36件）
うち１件が上水道の取水停止に至った。（12月31日：大館市・水供給に影響なし）

・発生原因別に分類すると、交通事故１０件、機械の故障９件、操作ミス７件、不法投棄１件、その他２件（落雪、自然現象）、原因不明８件となっている。
機械の故障や操作ミス（16件、43%）は定期点検や操作者の注意で未然に防げたものである。

・原因物質別では油類３５件と全体の９５％を占めている。

・月別の発生件数は、例年１０月から３月の暖房燃料需要期に増加する傾向にあるが、平成２１年は６月と８月が各々９件、６件と上位を占めた。







